報告者について

氏名 （所属専攻・職名）	井上章一（国際日本研究専攻・教授）
略歴	学歴 S53　京都大学工学部建築学科卒業 S55　京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程終了 職歴 S55　京都大学人文科学研究所助手 S62　国際日本文化研究センター助教授 H14　国際日本文化研究センター教授
専門分野	建築史・意匠論
現在の研究テーマ	風俗、意匠など、目に見えるものをつうじた近代日本文化史の再構成

報告内容について

題目	日本のタヌキと世界のネコ
概要	20 世紀の末ごろから、世界各国に招き猫がひろがりだした。いわゆるグローバル化の波にのって、国境をこえたように、とりあえず見える。しかし、それだけでは説明がつかない。じっさい、他の招福人形は、招き猫ほど普及しなかった。達磨の置き物や福助人形は、招き猫ほど海をこえていない。狸の置き物などは、ほとんど海外で見かけないだろう。市場の国際化は、圧倒的ないきおいですすみつつある。猫のように、それと歩調をあわせ国際化するものが、いないわけではない。しかし、そのいっぽう、国内からなかなかでられない狸のようなものもいる。同じ縁起物の招福人形でありながら、世界にうけいれられる度合いが、まったくちがう。どうやら、狸には国際化しづらい、特殊日本的な何かがひそんでいるらしい。そして、猫には世界からもとめられる魅力があるということか。当日は、猫と狸をくらべることで、あたえられたお題にはむきあいたい。